

連携室だより「さくら」

沖縄県立北部病院

病院の理念『みなさまに信頼され 心ある病院』

2022/5/1 第 141 号

沖縄県立北部病院 地域医療連携室

TEL 0980-52-2717 FAX 0980-52-4298

E-mail:kenhokurenkei@grape.plala.or.jp

新年度の慌ただしさもようやく落ち着いて参りました。当院でもたくさんの新しい仲間を迎えフレッシュな風を感じています。今年度もいろいろな情報を「さくら」や北部病院公開講座、ラジオやんばるメディカルゆいまーるを通して発信していきたいと思えます。

入退院支援について

入院支援看護師 入南風野 唯
社会福祉士 兼島 典子



入院が必要となると病気や仕事に対する不安もそうですが、今までになかった困ったことが起こります。そこで、患者さん・ご家族と一緒に退院後の生活についてご相談できる窓口が「地域連携室」です。

地域連携室の中には院外連携を行う事務員と患者サポートを担う看護師が配置されている前方業務と、入退院支援を担っている後方業務に分かれています。今回は「入院支援」と「退院支援」を中心に説明いたします。

○入院支援とは

入院時に最初にお会いするのは入院支援看護師です。入院支援看護師は外来や救急看護師と連携し、日頃の生活状況や家族の暮らし、病気に関する事をお伺いします。

入院中に行われる治療や検査について医師の補助的な役割として説明致します。

また、入院生活や退院後の注意事項について事前に説明いたします。

○情報収集及び情報共有

例えば飲んでいるお薬やかかりつけ医について、介護サービスなどこれまでの生活や退院後の患者さん・ご家族がどういう生活をしたいかなどについて確認します。

たとえば尿路感染症で入院した場合には自宅での生活状況を踏まえた上で飲水量、トイレ回数など排尿パターンなど、保健指導に必要な情報を聞き取り、各病棟担当の退院支援看護師・社会福祉士、病棟看護師へとつないでいます。

○退院支援とは

病気は治ったけれども、退院後の生活に不安があるという場合があります。例えば、家に帰りたけれど、一人暮らしは不安に思うなどです。患者さんが安心、納得して住み慣れた地域で療養や生活を継続できることを目的に、患者さんの不安や状態を踏まえながら、退院後の暮らしについて一緒に考えていくことが退院支援です。担当は退院支援看護師とMSWです。

まず大切なことは何よりも患者さんご本人の希望です。どのような思いでいらっしゃるかお聞きします。次に、入院支援看護師からの情報をもとに、より詳しい生活状況、ご家族の協力体制を確認します。

患者さんとご家族と一緒に、退院後の生活を考えていきます。主な役割として退院支援看護師は、病気と治療経過を理解して今後の病状の変化を予測し、リスク回避できる保健指導を実施します。MSW は相談援助職として生活課題へアプローチし、社会資源の調整と関係機関の支援体制づくりを行います。

例えば今まで身の回りのことは全てご自身で行っていた人が、入院を機に動けなくなった時、1人での生活が難しくなります。

そこで、本人の希望、ご家族の協力体制、自宅の環境について詳しくお聞きします。

それから、医師、病棟の看護師、リハビリ担当から、病状、行動できる範囲や退院後に想定できることなどを情報収集します。

一人暮らしの高齢者の方であれば、生活の総合的な相談窓口である地域包括支援センターをご紹介したり、介護保険制度のご案内、介護保険サービスの検討を行います。

介護保険サービスでは、家事援助や身体介護目的のヘルパー。調理や清掃、入浴などのサポートを受けることができます。また、活動目的にデイサービスやリハビリに通うこともできます。退院後の生活に必要なサービスは何かを患者さんとご家族と一緒に考えます。

なかには施設入所を希望される場合もあります。施設といっても数多くの種類があり、目的や入所に伴う条件があり、適切な場所を選定する必要があります。退院先については、患者さん1人ひとりの希望と状況を理解して、退院後の生活を整えていきます。

また、担当のケアマネージャーの方がいる場合は、情報交換を通してサービス調整を行います。

そして、本人・家族、地域支援者の方々と退院後の生活について話し合うこともあります。

退院支援を通して患者さんの生活を支える仕組みを作ります。

最後に

地域のネットワークがあるからこそ、患者さんの生活を支えることができています。

やんばるの地域支援者の方々には、いつも密な連携をとっていただき深く感謝しています。

患者さんが、必要な支援を切れ目なく受けられ、安心して療養生活を送ることができるように今後も支援していきたいと思えます。

そのためにも、みなさんには、日ごろから、ご自身やご家族が、このやんばるでどのように生活していきたいか、何を大切にしたいか、周りの支援者の方々とご検討下さい。

そして、万一、病気にかかり入院した際には、その意志や準備してきたことを病院へ伝えて下さい。

私たちと一緒に退院後の暮らしについて考えていきましょう。

「やんばるメディカルゆいまーる！」

FM やんばる 77.6MHz

毎週火曜日 11:30～ 木曜日 13:30～

5月 婦人科の腹腔鏡手術について 諸井医師

6月 調整中

*視聴希望や感想などを FM やんばるへ直接メールする場合は

mail@fmyanbaru.co.jp

不眠の中に隠れたせん妄

認知症看護認定看護師 久高 いづみ

今回は、高齢者や術後などに起こりやすい『せん妄』についてお話したいと思います。

【せん妄とは】

せん妄は、よく『不眠』、『不穏』や『認知症』などと表現されたりしている事が多くありますが、『せん妄』は、身体疾患や薬剤などが原因で起こる一過性の脳機能障害です。せん妄は**意識障害**であり、特に**注意の障害**を認めます。



【用語の整理】

『不眠』ストレスや何らかの疾患、薬の副作用などによって生じた睡眠障害（入眠障害・途中覚醒・早期覚醒・熟眠障害）が1ヶ月以上続き身体への影響が出ている状態。

『不穏』落ち着かず行動が活発になっている状態を表す表現。（せん妄も原因の一つになる）

『認知症』後天的に認知機能が低下し、自立が妨げられうる状態。慢性的に進行する

【注意の障害を示す症状とは】

- ・活気がなくこちらに関心を示さない
- ・説明した内容を理解できていない（もともとは可能であった、時間帯での変動がある）
- ・すぐに話の内容がそれてしまう、同じ話を繰り返す
- ・言い間違いが多い

などの症状があります。これは、もともとは正常であったが、一時的な機能障害によって出現してきます。原因となる身体疾患や薬剤などを取り除くことによって改善する事が出来ます。

せん妄は、一時的な脳機能障害である。と聞いても、難しくイメージ出来ない事もありますよね。その時に私がたとえるのが、朝の寝起きでボーっとして回りの話が理解できず、状況の把握が出来ない状態。また、アルコール摂取後などで、相手の話が理解できない、同じ話を繰り返す、おかしい行動をとる。などを揚げています。せん妄は日中の中でも変動はありますが、その状態が数日間または数週間続く状態です。少し、イメージする事が出来ましたか？



【せん妄の要因】

- 1, 準備因子（器質的な脆弱性）：年齢・認知症・基礎疾患
- 2, 直接因子（せん妄を発症させる直接の契機）：感染・脱水・薬剤（特にベンゾジアゼピン系眠剤）・低酸素・心肺疾患など

3, 誘発因子（直接せん妄は生じないものの脳に負荷をかけ機能的な破綻を誘導し）：環境の変化・身体抑制・睡眠リズムの障害・痛みなどがあります。

せん妄を火にたとえて、下記のイラストで説明します。

準備因子＝ 薪 直接因子＝ 火種 誘発因子＝ 灯油 となります。

準備因子である薪に、直接因子である感染などの火種がつくことでせん妄を発症させ、入院による環境変化や身体抑制などの誘発因子の灯油が注がれることによってさらに大きな火となり、強いせん妄の症状を引き起こしてしまう事になります。

せん妄＝火



【せん妄の対応】

せん妄への看護介入の基本は、せん妄を発症させないよう予防的介入を行うことです。

せん妄の発症を起こさないようにする、又は発症しても短期間で収束するためにはどのような関わる事がよいのかについて説明します。

- 1, 準備因子（薪）となるリスク要因の抽出をおこない。隠れているリスクに気づく
- 2, 直接因子（火種）を排除する。おもに治療が中心となるため、点滴や内服、安静などの治療がスムーズに行えるように援助する
- 3, 誘発因子（灯油）への働きかけは、主に看護的介入です。環境変化を最小限にするような環境調整や、感覚障害を補うために時計やカレンダーの活用、苦痛を取り除くなどが必要となります。
- 4, せん妄を発症している場合は、上記対応をおこないつつ安全管理に努める。

せん妄を発症し落ち着きがなく入眠できないからと、安易に眠前薬の投与を行っても一時しのぎにったり、せん妄を長期化させてしまう。また、身体抑制なども悪化させる要因になりえるため、注意が必要となります。

せん妄に気づくポイントは、いつもと違う・なんか変？と感じる観察力です。

せん妄を発症しているかも知れないと感じたら、スタッフと共に観察を強化し、上記で説明したような対応を行う事が大切です。

せん妄に関する Q & A

Q) せん妄は認知症や高齢者のみに発症するのか？

A)せん妄は、適応能力が低下している高齢者や認知症者に多く見られますが、比較的若い方にも発症する事があります。手術後に術後せん妄を引き起こした事例や、入院によってゆっくり休めず、初めて飲んだベンゾジアゼピン系眠剤の影響でせん妄を発症した事例もあります。

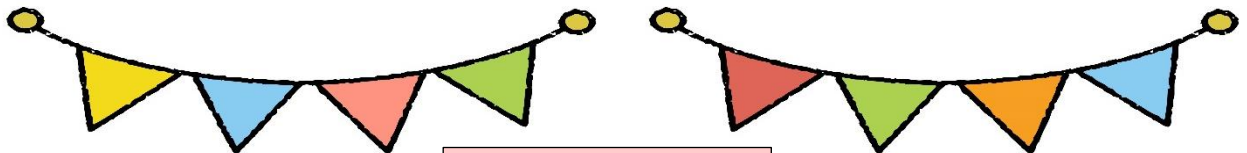
年齢が若いからといってせん妄が発症しない訳ではありません。(準備因子・直接因子・誘発因子)によっては発症の要因になるため、十分考慮する必要があります。

Q) もともと服用していたベンゾジアゼピン系の眠剤は入院後も安全に服用出来ますか？

A)ベンゾジアゼピン系睡眠薬はせん妄発症リスクになるため、問題なく服用出来ていたとしても、その時の状態(準備因子・直接因子・誘発因子)によってはせん妄発症の要因になります。発症リスクのある要因は、可能な限り排除する事が必要です。

せん妄は、一過性の症状である事が多いです。しかし、その症状を目の当たりにした家族は 認知症になったのではないかと不安になります。その時には、一時的である事を伝え安心してもらえるような説明が必要です。

今後も認知症ケア委員会のリンクナースとともに、認定看護師としてもせん妄対応の中心となれるように関わっていきたいと思いますので、何か不安な事や分からない事がありましたら、いつでも声をかけてください。



看護部の紹介



New 看護部

新年度の看護部です！

よろしくお願いします！

(左より備瀬副看護部長、安座間副看護部長、比屋根看護部長、幸地副院長)

新人看護師 21名入職しました！

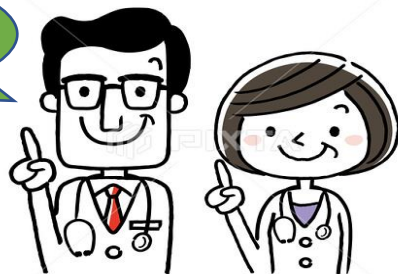
本日は感染管理のデモンストレーション研修です！
皆さん真剣なまなざしです。



医局の紹介

新採用・赴任・研修医の医師を紹介します。

よろしくお願いします！



内科：東 哲之、久高 翔太、比嘉 駿介、

外科：石上 高大

小児科：比嘉 詠美、伊元 栄人、

救急科：玉城 仁巳

麻酔科：富田 寛生

研修医：安座間 陽輝、有園 功一、長嶺 一樹、前 拳太郎、山口 雄大、
佐藤 裕

沖縄県立 北部 病院 市民公開講座

現役産婦人科医からの声を直接みなさまに届けたい

みんなで考えよう
沖縄北部産婦人科医療

地域の方への説明会

ふくろうきょう 婦人科の
腹腔鏡手術について

担当 北部病院 産婦人科 諸井明仁 医師

check QR code



日時：2022年 5月 26日 (木) 17時15分～18時15分

場所：北部病院 2階 会議室

みんなで聞きに
行かなくちゃ！

お問合せ 地域連携室
看護師長 翁長 内線(2864)

(TEL) 0980-52-2719
(FAX) 0980-54-2298

どうかお気軽に
いらして下さい！



手術で使う本物の
器具も見られます

どなたさまも ご参加頂けます！

普段は聞けないことをズバリ聞けます！

ウェビナー登録のアドレス ZOOM

https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN_RKAMxUONSLKR4qwfr-1Z4w